

第3回APNG Camp参加報告

牧 兼充

参加の概要

- 去る2月20、21日の両日に、台北にて第3回 APNG Campが開催された
- APNG Campはこれからのインターネットを担う人材の発掘・育成を目的としてスタートし、今回で3回目となる
- この活動にJPNICからも積極的に参加していることということで、私は第2回から参加している
- 今回はco-chairを務めた

成果

- 過去3回のcampでどのような成果が上がったか、と問われると、正直まだまだこれからであるといわざるを得ない
- APNG Campの目的を達成するために何をするのか、という点がまだまだ定まらず、試行錯誤の段階であるからである
- インターネットコミュニティからAPNG Campを見た場合「そろそろAPNG Campは、インターネットコミュニティにとってどういう貢献ができるのか目に見える形で見せてくれ」という状況のはず

APNG Campの現状の課題

- 参加者が二つのグループに分かれており、その間のギャップをどう埋めるか
 - 各国のNICからの参加者を中心とする、いわゆるインターネット運用グループ
 - インターネットをメインのフォーカスとしていない組織(たとえば国際異文化交流組織など)からの参加者たちを中心とした、いわゆるインターネットエンドユーザーグループ
- どちらかのグループにフォーカスを絞るべきではなく、インターネットの発展のためには、双方のグループが共に重要であり、更にその両者の連携が必要不可欠

今回の成果

- 第2回はエンドユーザー系プログラムにシフトしており、運用系プログラムとはややかけ離れている感があった
- 第3回では、もう少し運用系プログラムを増やす必要があると考えた
- インターネットポリシーに関連するプログラムを強化するために、日本から2つのセッションを提案した
 - 「インターネットガバナンス」
 - 「IDN (Internationalized Domain Name :国際化ドメイン名)」
- この二つのセッションは、運用グループの方々には概ね好評だった

今後の提案

- どのような形で第4回のプログラムを組むかはこれからの大きな課題
 - 日本からは柴田巧さんがco-chairとして選出された
- 今回のco-chairの経験に基づいて、第4回プログラムは、運用系とエンドユーザー系の二つの柱を立てて、プログラムの全セッションを平行にして、双方を自由に行き来することができる方向性を提案した

まとめ

- APNG Campは、今後のインターネット発展のための大きなポテンシャルを持っている
- 今後のcampにおいて、運用系のプログラムを充実させていくことにより、JPNICや日本企業にとってもこのcampに参加するメリットを明確にしていくことが可能
- 以下の役割を担うことにより、その意義が明確化し、参加者の増加、スポンサーシップの確立が可能となっていく
 - 技術的な背景の理解の場
 - インターネットに関連するポリシーの議論の場
 - 技術を普及させていくためのビジネス化のための議論の場
 - などの役割を担うことにより
- 最後のこのAPNG Campの活動を支えて下さった多くの皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。